

平成 24 年度
卒業予定者による
フィードバック調査結果

平成 25 年 5 月
教育・国際室

目次

1.	総評	1
2.	集計結果	4
3.	平成 23 年度との比較	9
4.	実施要綱	14
5.	アンケート項目	16

平成 24 年度卒業予定者によるフィードバック調査の総評

副理事（教育改革担当） 古澤 修一

今回で 4 回目の調査を実施しましたが、昨年度より約 9%、一昨年度より 22% もアンケートの回収率は下がり、26.36% となってしまいました。学部間およびプログラム間でも回収率に差がありましたが、アンケート結果の信頼性を向上させるためには、より多くの学生さんに大学に対して意見を出して戴く必要があります。大学評価としての認証評価では、教育の内部質保証が求められています。その観点から、各部局の教育・研究のレベルを把握して、改善・向上させるアセスメントのシステムが機能してはなりません。しかしながら、現状ではアセスメントに有効なデータが不足していると判断せざるを得ません。回収率を上げるためには、広報や各部局での周知などの対策が必要と考えます。また、全学的にも、例えばアンケート回収方法の検討や回答しやすい学生の導線を構築する等の措置を行う必要があります。国立大学法人が社会に説明する責任および義務として、内部質保証のシステムを構築するためには、今後のアンケートの在り方を再検討する必要があると考えざるを得ません。このことは、教育・国際室の大きな使命として受け止めなければならないと考えています。しかしながらこのような低い回答率であっても、各部局においては 24 年度の学生の声を真摯に受け止め、改革・改善に向けた取り組みに役立てて戴きたく、宜しく願いいたします。

学士課程卒業予定者のアンケート結果から見えることは、ほぼ全ての項目で 23 年度よりも 24 年度卒業生の満足度が低い結果となっていることです。1) チューターの履修指導の適切性、2) 卒業研究の有意義度、3) 教養教育に対する満足度、4) 専門教育に対する満足度、5) 所属学部の学生支援室の学生対応とサービスに対する満足度、6) 学生プラザの学生支援部門の学生対応とサービスに対する満足度、7) 教育情報システムの利便性に対する満足度、等々、ほぼ全てにおいて満足度は低下していました。今年から、アンケートの回答項目を変更した項目もありましたが、これらにおいても、向上したとは考えられない結果が得られています。部局毎で見ると若干の増減があるようです。しかしながら、ほぼ全ての項目で平均して平成 23 年度よりも満足度が低下しています。このことは、全ての項目に関して、各部局でこの問題を認識していない、あるいは問題視して改善を行ったが、その効果はまだ現れていないことを意味しています。各部局、施設におかれましては、今回の結果を真摯に受け止め、改善を行って戴きたいと思えます。

- ・ 教養教育の内容への満足度については、回答した学生の多くは、専門外の知識や能力を使うことができたので、満足しているとの事でしたが、まだまだ、教養教育科目の受講目的を理解していない学生が多いことも事実でした。中でも、専門科目を学んでから教養科目を学びたいという意見など、今後の改善に役立つ意見も見られました。教養科目でも問題は 2 つでした。やる気の無い授業を行っているという学生に感じさせてしまう教員がいて、講義によって満足度がまちまちであることと、同じ授業科目なのに、成績評価

が複数の開講科目間でかなり異なる事への不満でした。

教養教育本部でも、この2つの問題を認識しており、平成24年3月に、教養教育担当者の研修会を開催しました。また、パッケージ科目においても、各パッケージ間で、内容の関連性を担当教員者間で相談して戴く依頼も出しています。最後の成績評価についても、担当者達への指導を行っています。このような取り組みが実施されたのが2年前ぐらいの事ですので、この効果の検証は、2年後ぐらいに行いたいと考えています。

- ・ 専門科目の内容への満足度では、ほとんどの学生が、満足のいくものであったと回答していました。しかしながら、他方で演習科目を増やして欲しい、つまり教科書を読めばわかるような講義をしている授業への批判も多数ありました。これは、毎年のように要望されております。現在、文科省からも要望されている主体的な学びの方法やアクティブラーニング法を取り入れることを要望されておりますが、全ての教員は、単なる知識の押し売りでなく、生涯学習力や問題解決能力、課題発見能力などを身に付けさせる効果的な学習方法への転換を図るべきだと感じました。また、学んだ内容がどのような意味があるのかを体系的に理解し難いという意見もあり、プログラム内でのカリキュラムマップとそのポリシーを学生に理解してもらう事がまだ不足しているようにも感じました。医学部や歯学部学生の回答では、国家試験という資格養成の講義であるためと考えられますが、学問内容への内容的な不満も見受けられました。

今後のガイダンスの内容などを改善して戴き、学生目線で分かり易い指導を行って戴きたいと思います。

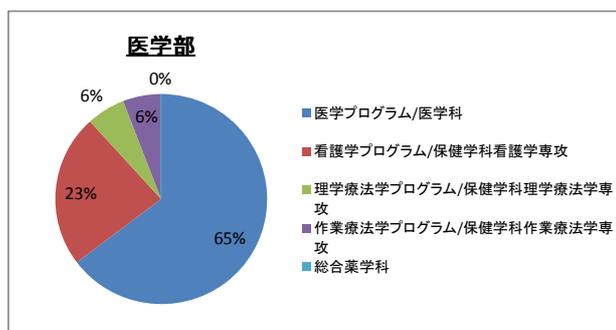
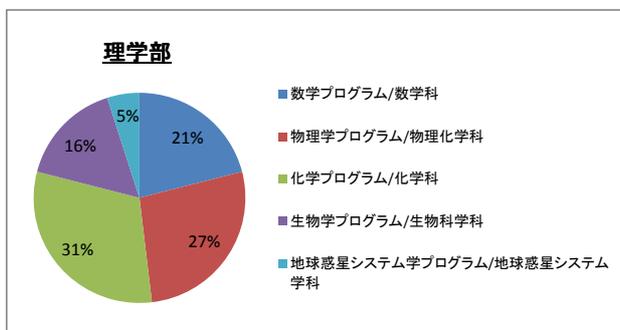
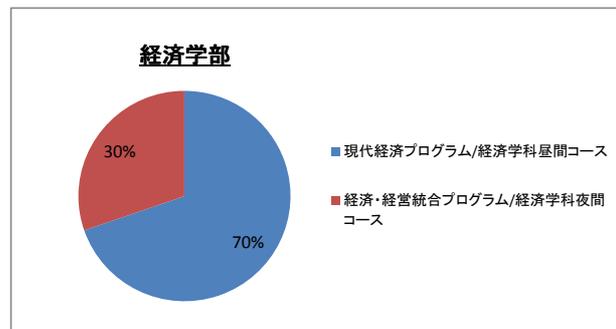
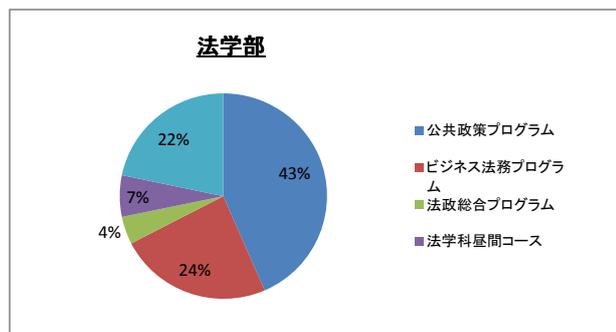
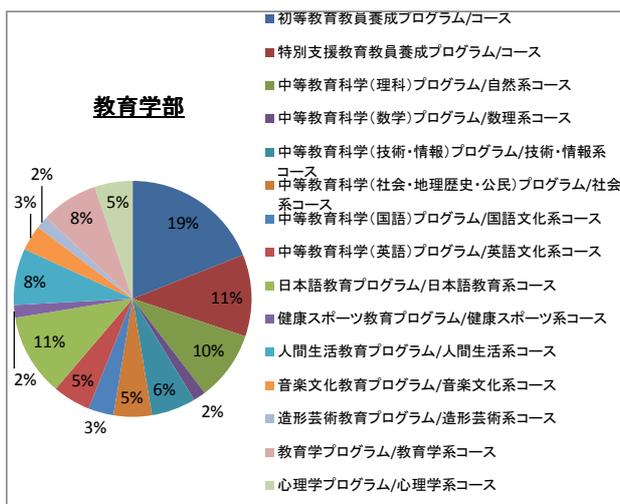
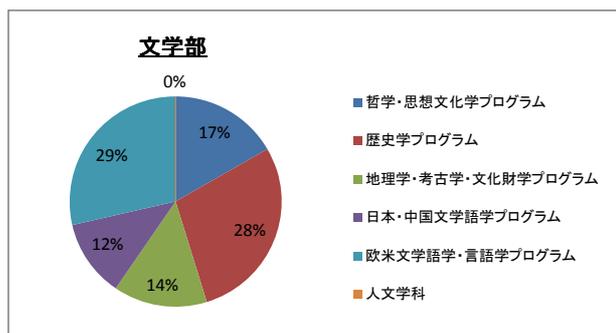
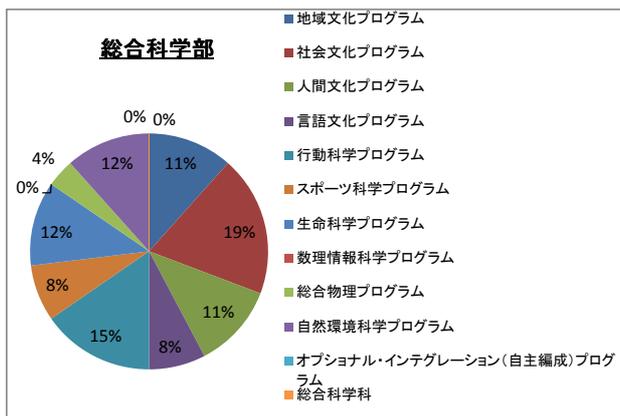
- ・ 専門教育でもっと学んでおけば良かった点については、各専門分野での細かな追加知識が沢山出てきておりましたが、それと同程度に多かった意見は、いわゆる学士力や社会人基礎力に記載されているような能力を学びたかったと言うものです。それらの中にも含まれますが、英語能力についても、多くの学生が要望していました。これは、昨年を引き続いての要望です。つまり、専門領域を用いて、論理的思考力や問題解決能力、自己管理能力、市民としての社会的責任、生涯学習力、コミュニケーションスキル、主体性、想像力、発信力、傾聴力等々の力を培うのもであると、全ての教員が再度認識する必要があるのではないかと感じました。
- ・ 学生生活については、主に4点の事項が目立ちました。まず始めに、各学部での支援室の職員の学生への態度について、多くの不満がありました。各学部において、部局長より指導をして戴きたくお願い致します。2点目は、“もみじ”で卒業用件に関する履修単位数を確認できるようにして欲しいとの要望です。これは本来“もみじ”が持っている機能ですが、多くの学部ではその機能をストップさせています。色々な理由があるとは思われますが、多くの場合、システムで計算させた値が履修条件の複雑さにより完全に反映できないことだと認識しています。現在は、多くの部局で手作業による確認を行っています。不完全な数値を公開することの混乱を避けるためです。履修条件が変わった時にはすぐにシステムに対応させるとか、事務手続き上の素早い対応があれば、リアルタ

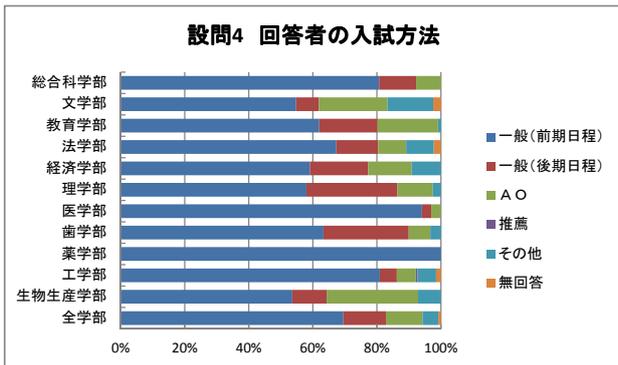
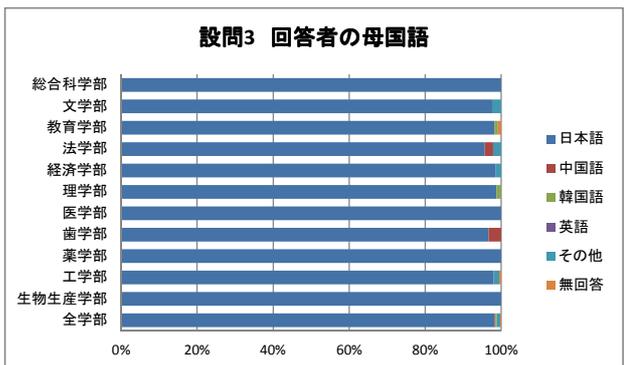
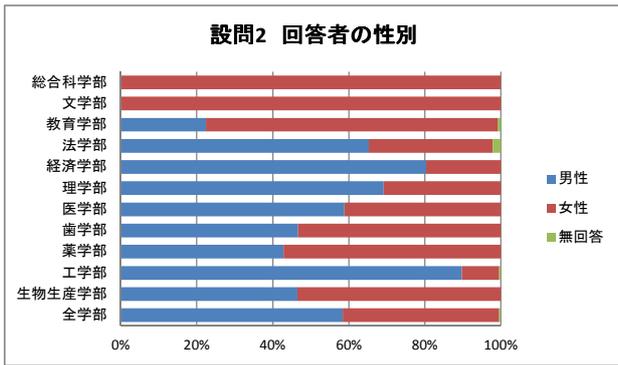
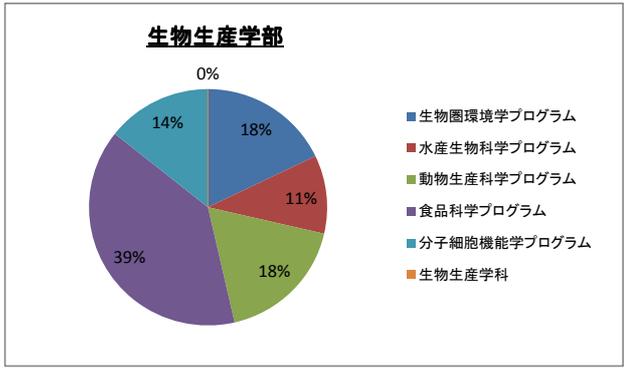
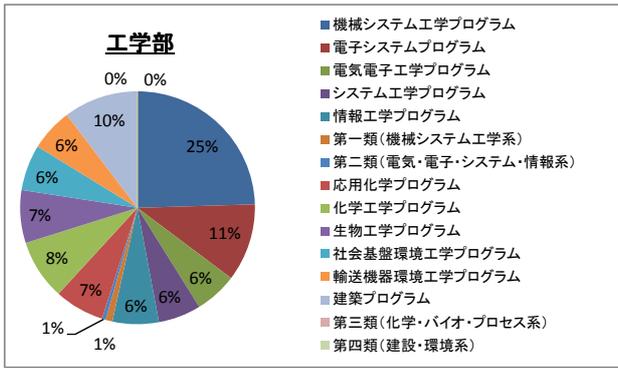
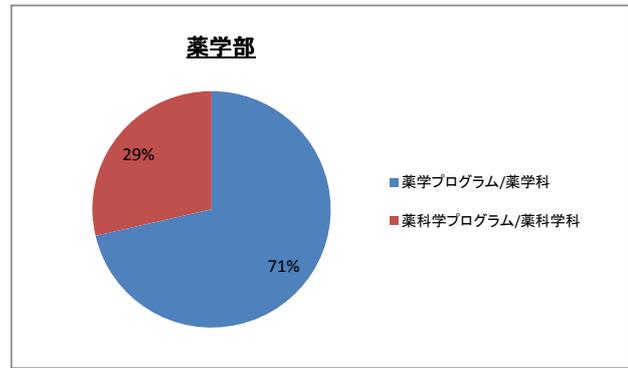
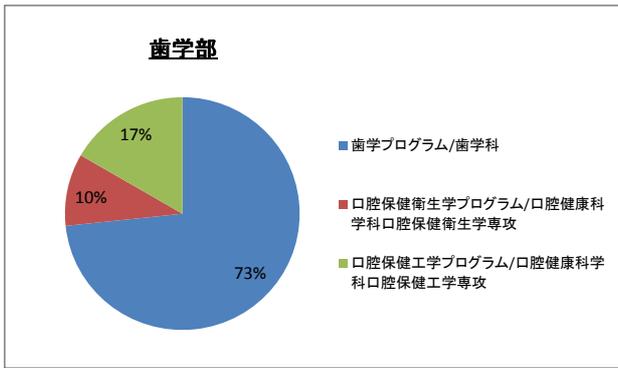
- イムで学生に提示できます。混乱を避けるためには学生に、システムで計算した不完全な値である可能性があるので、自分でも便覧を見て確認するように案内することもできるはず。支援室レベルでの業務改善を期待したいところです。3点目の問題は、図書館の24時間開放やゼミ室などの、施設に関する要望です。この事は行動計画2012でも対応が考えられており、改善による今後の経過で判断したいと思います。4点目は、東千田と霞の学生支援システムが手薄になっているとの指摘です。これも、行動計画2012で対応を検討しておりますので、改善による今後の経過で判断したいと思います。
- ・ 進路・職業選択などのキャリア支援についてですが、キャリアセンターの存在を知らない学生が多いことに驚いています。このような施設の広報を、各部局でも積極的に行って戴きたいと思います。

集計結果

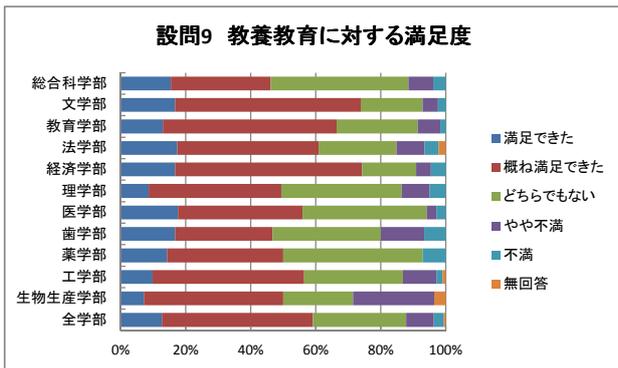
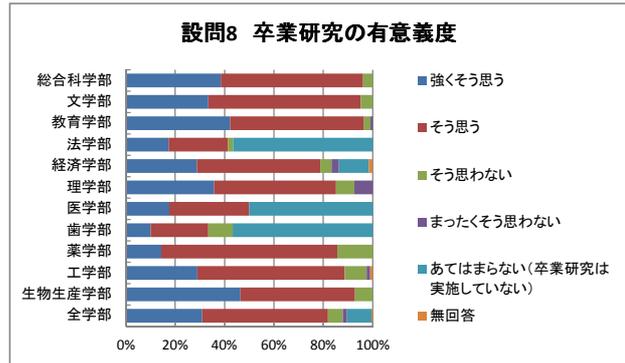
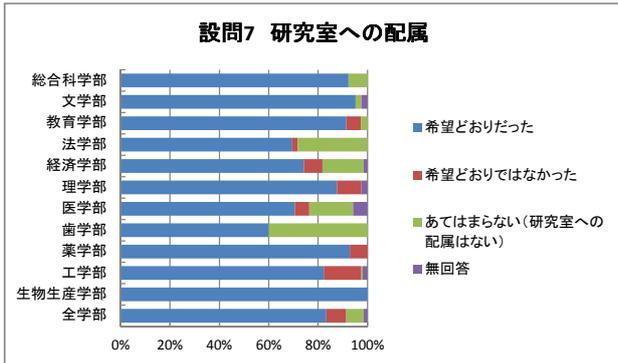
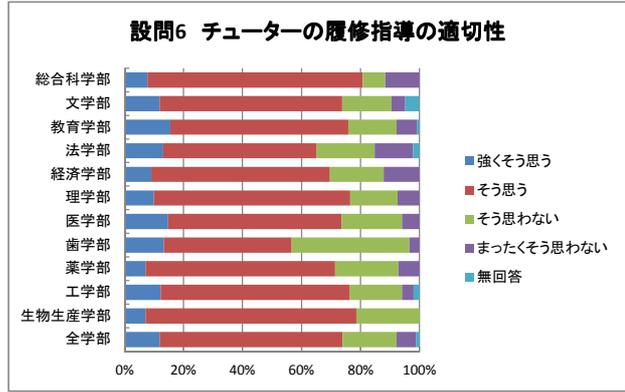
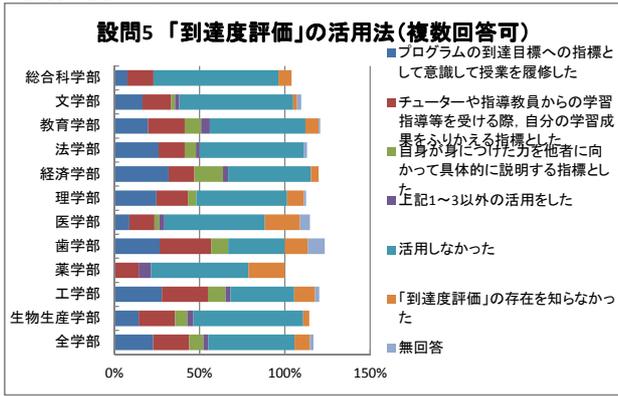
学部	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
総合科学部	128	26	20.31
文学部	186	42	22.58
教育学部	556	116	20.86
法学部	219	46	21.00
経済学部	249	66	26.51
理学部	256	81	31.64
医学部	243	34	13.99
歯学部	88	30	34.09
薬学部	54	14	25.93
工学部	513	204	39.77
生物生産学部	114	28	24.56
全学部	2606	687	26.36

【回答者に関して】 設問1 回答者の所属プログラム等



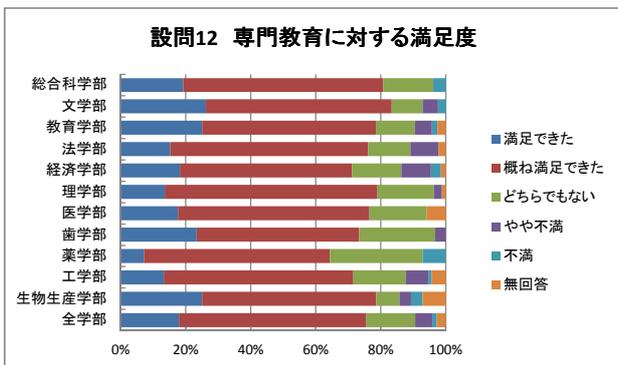


【教育に関して】



設問10 設問9の理由
自由記述のため省略

設問11 「教養教育でもっと学んで(身につけて)おけばよかった」と思う知識や能力・技能について
自由記述のため省略

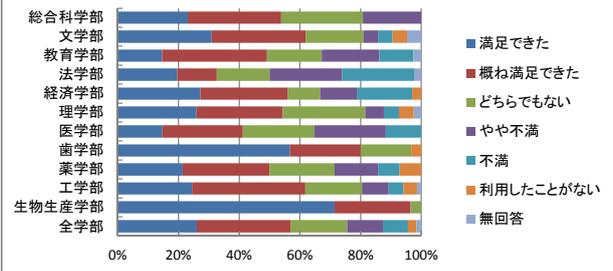


設問13 設問12の理由
自由記述のため省略

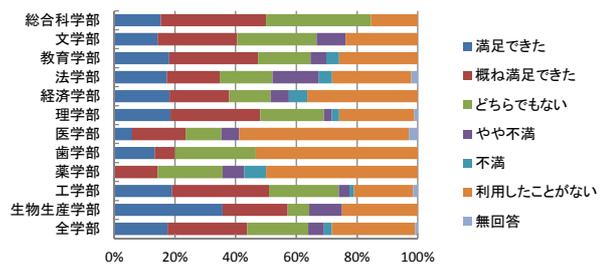
設問14 「専門教育でもっと学んで(身につけて)おけばよかった」と思う知識や能力・技能について
自由記述のため省略

【学生生活に関して】

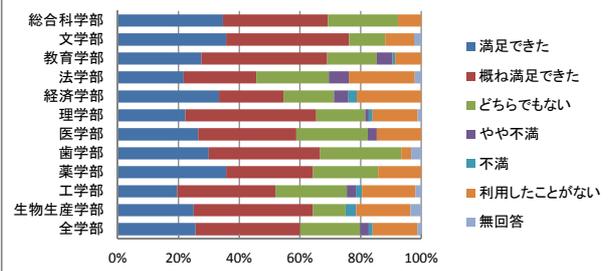
設問15 所属学部の学生支援室の学生対応とサービスに対する満足度



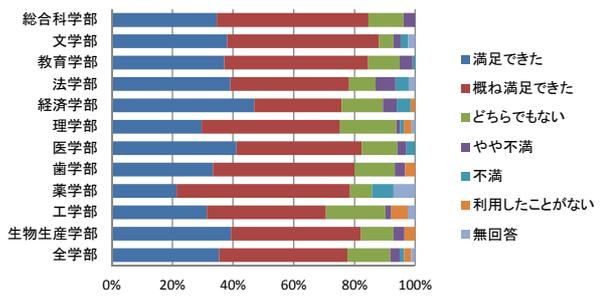
設問16 学生プラザの学生支援部門の学生対応とサービスに対する満足度



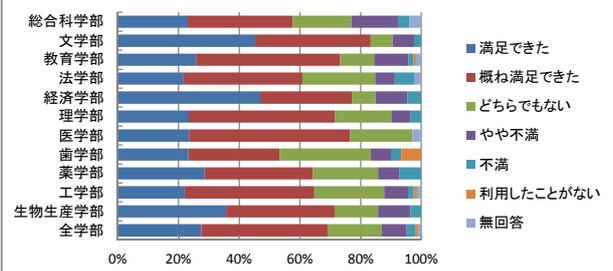
設問17 保健管理センターの対応とケアに対する満足度



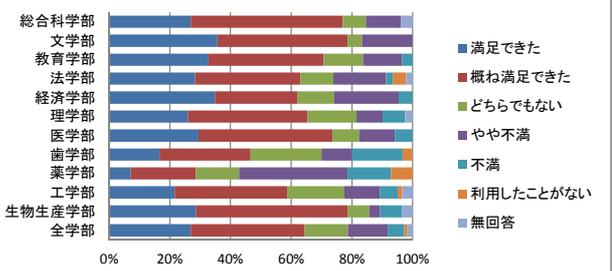
設問18 図書館の対応とサービスに対する満足度



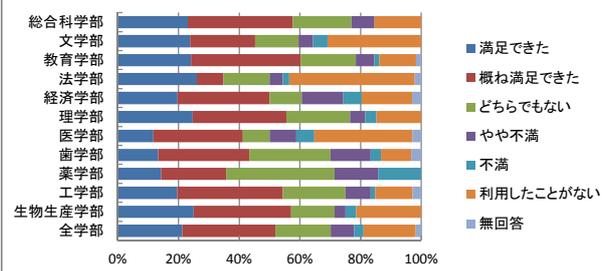
設問19 教育情報システムの利便性に対する満足度



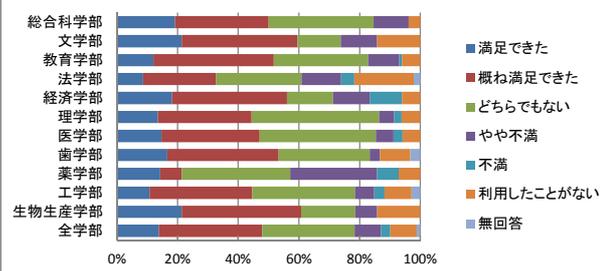
設問20 福利厚生施設の施設や設備とサービスに対する満足度



設問21 課外活動施設の施設や設備に対する満足度

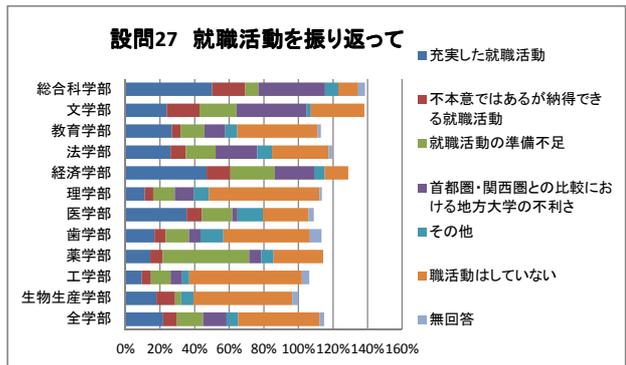
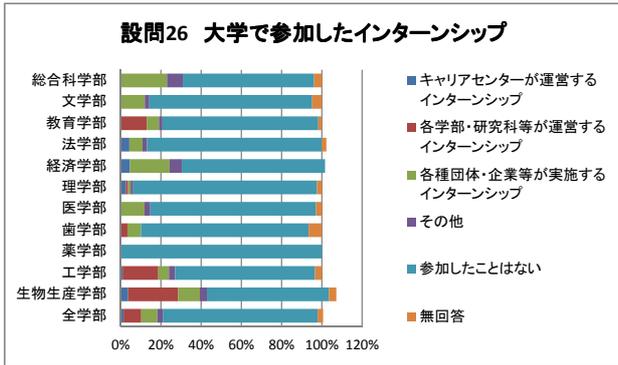
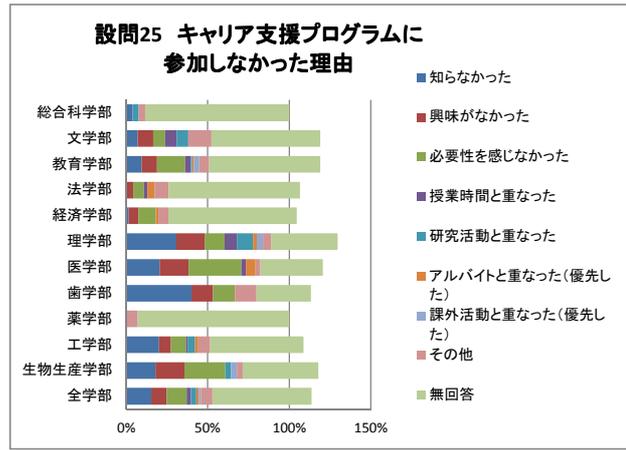
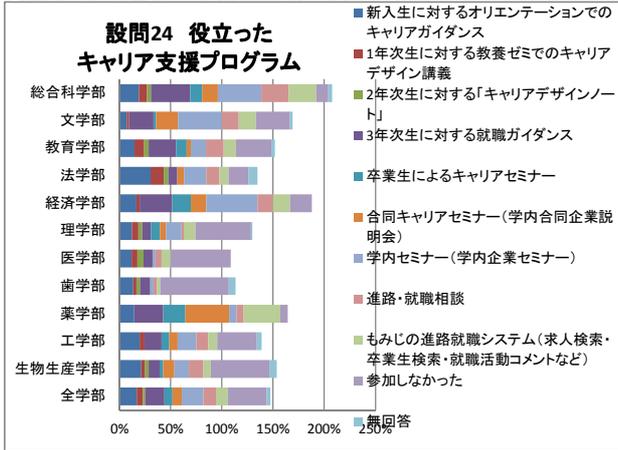


設問22 授業以外の学生生活での大学側のサポートとサービス内容に対する満足度



設問23 学生生活に関する意見や要望等自由記述のため省略

【進路・職業選択及び就職活動に関して】



設問28 進路・就職選択及び就職活動を振り返って、キャリアセンターに対する意見や必要だと思う支援プログラム等について自由記述のため省略

平成23年度との比較

【回答率に関して】

平成23年度

学部	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
総合科学部	133	46	34.59
文学部	169	57	33.73
教育学部	560	154	27.50
法学部	234	71	30.34
経済学部	269	81	30.11
理学部	230	96	41.74
医学部	246	49	19.92
歯学部	101	20	19.80
薬学部	60	35	58.33
工学部	542	300	55.35
生物生産学部	127	46	36.22
全学部	2671	955	35.75

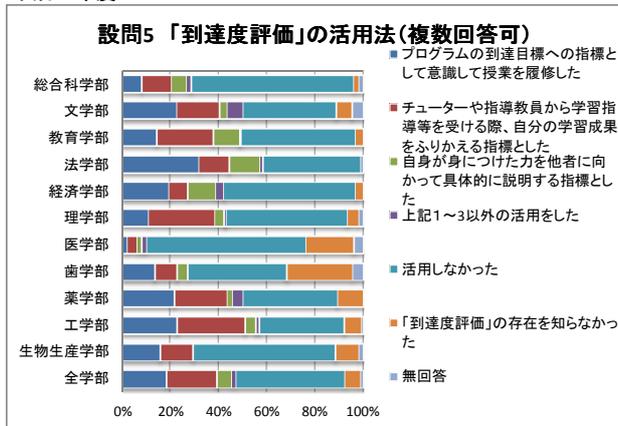
平成24年度

学部	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
総合科学部	128	26	20.31
文学部	186	42	22.58
教育学部	556	116	20.86
法学部	219	46	21.00
経済学部	249	66	26.51
理学部	256	81	31.64
医学部	243	34	13.99
歯学部	88	30	34.09
薬学部	54	14	25.93
工学部	513	204	39.77
生物生産学部	114	28	24.56
全学部	2606	687	26.36

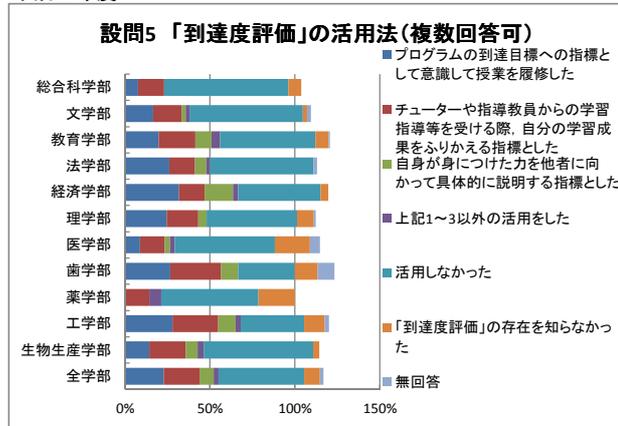
【教育に関して】

○教育プログラムの「到達度評価」の活用法

平成23年度

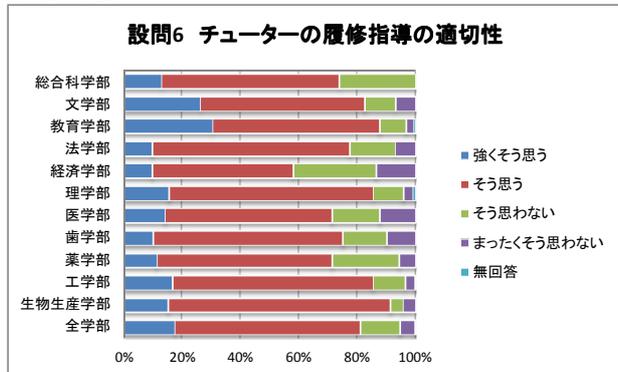


平成24年度

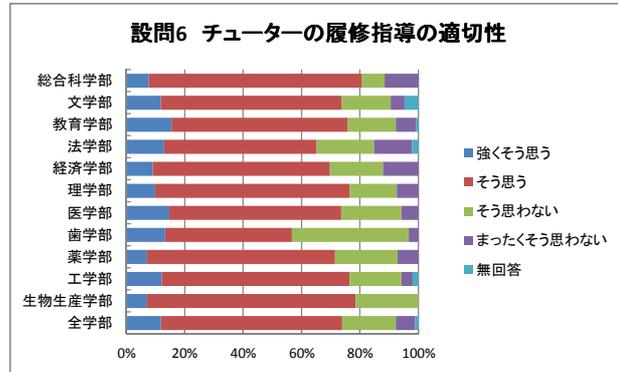


○チューターによる履修指導の適切性

平成23年度

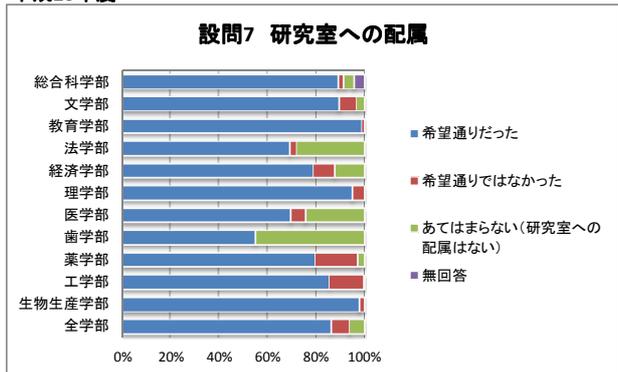


平成24年度

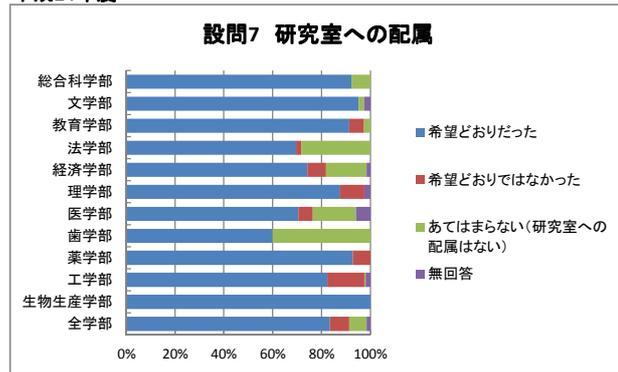


○研究室への配属

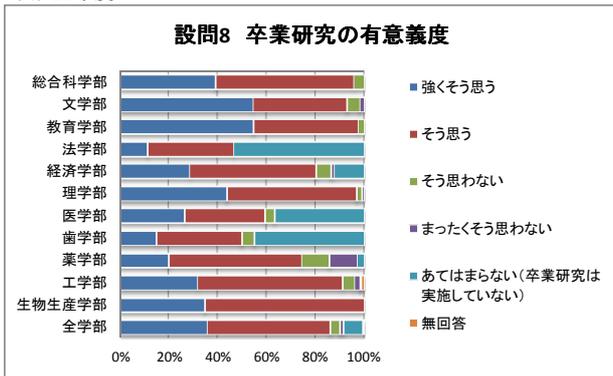
平成23年度



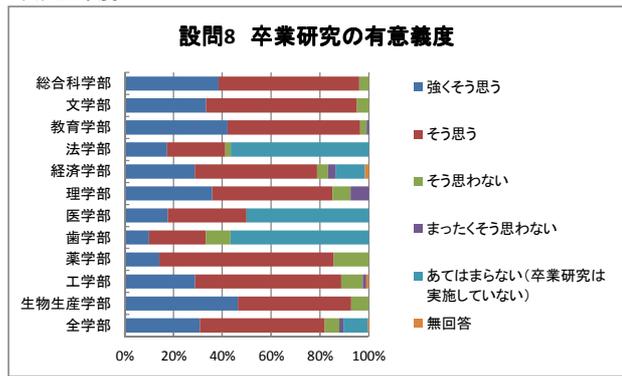
平成24年度



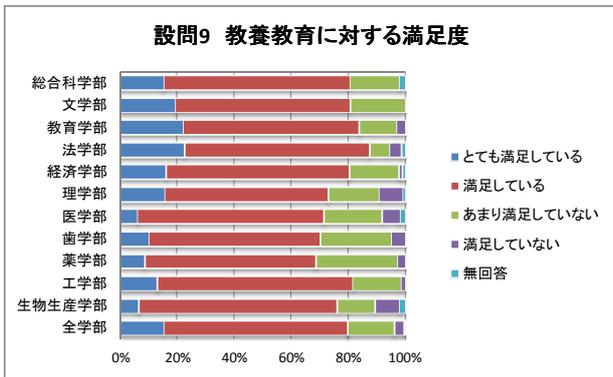
○卒業研究の有意義度
平成23年度



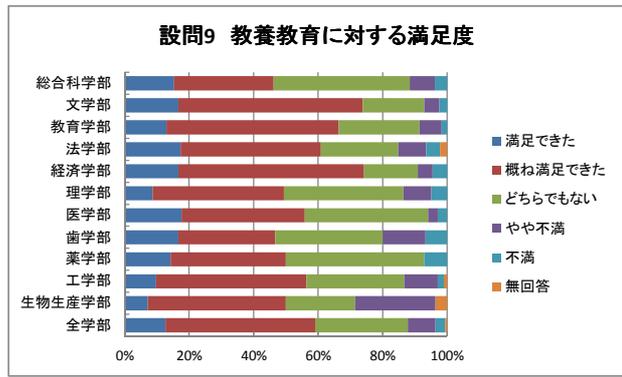
平成24年度



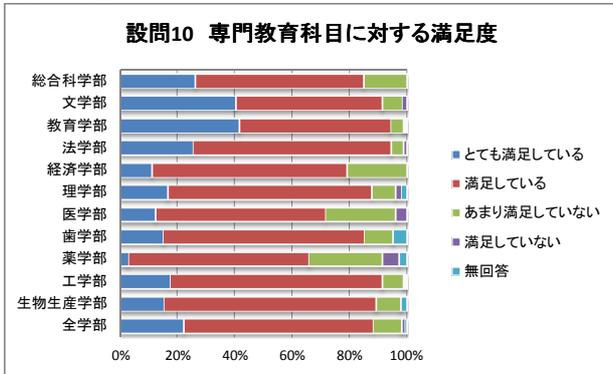
○教養教育に対する満足度
平成23年度



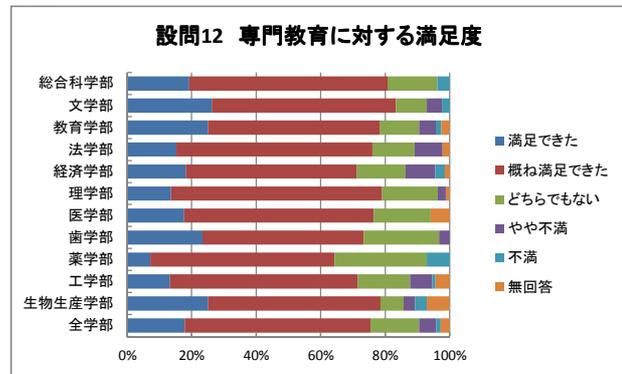
平成24年度



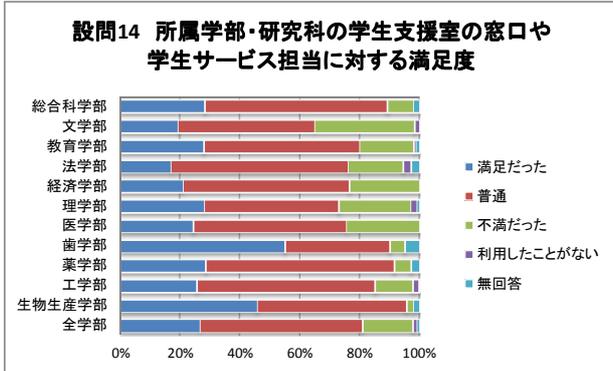
○専門教育に対する満足度
平成23年度



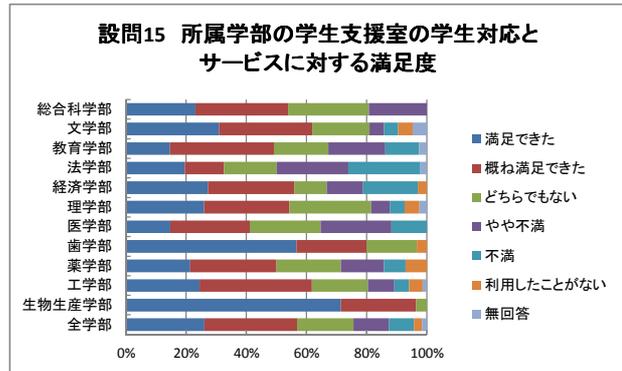
平成24年度



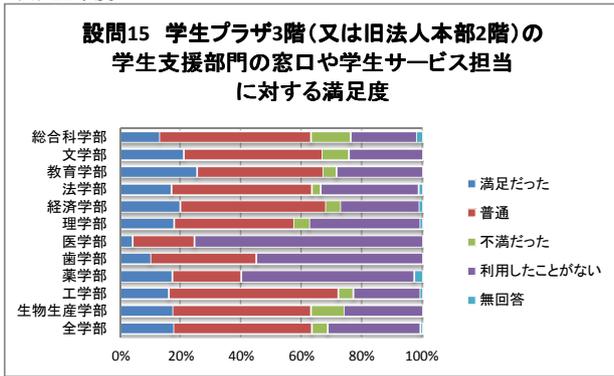
○所属学部の学生支援室について
平成23年度



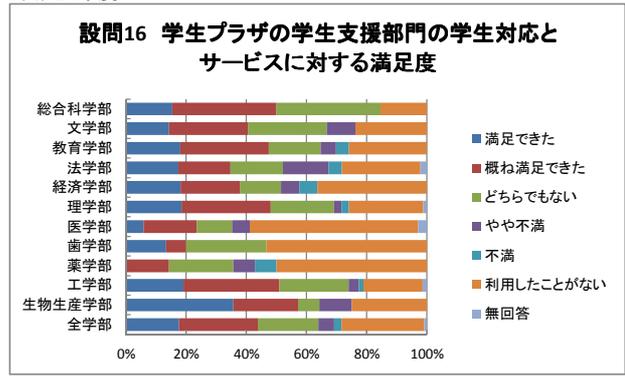
平成24年度



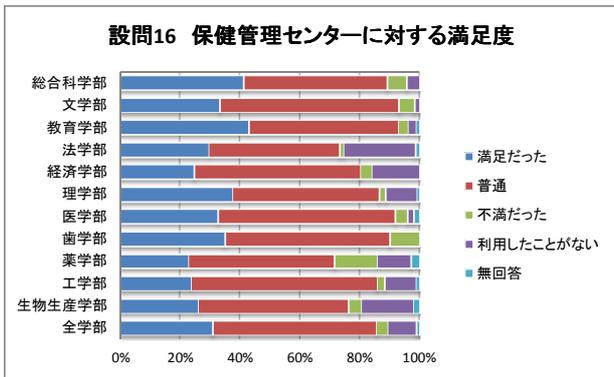
○学生プラザの学生支援部門について
平成23年度



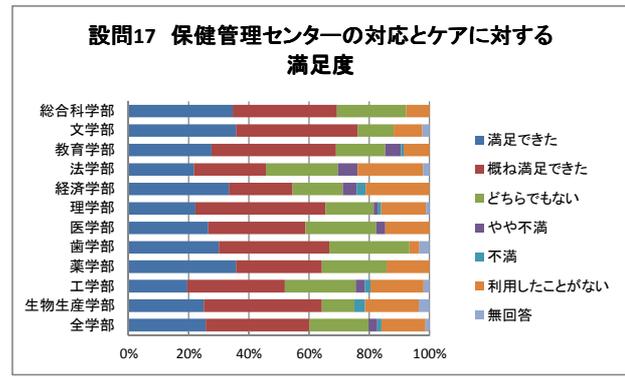
平成24年度



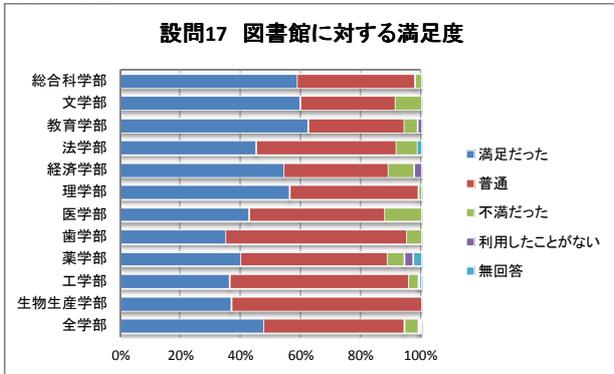
○保健管理センターについて
平成23年度



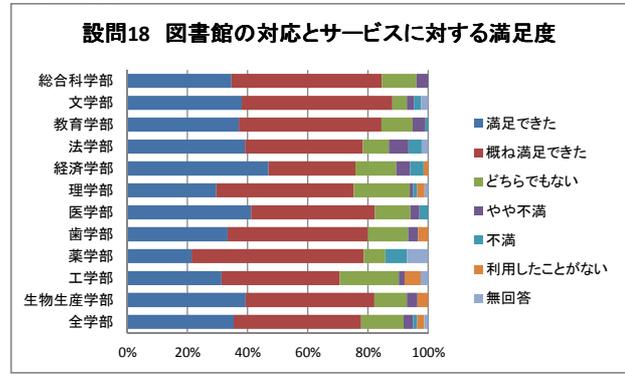
平成24年度



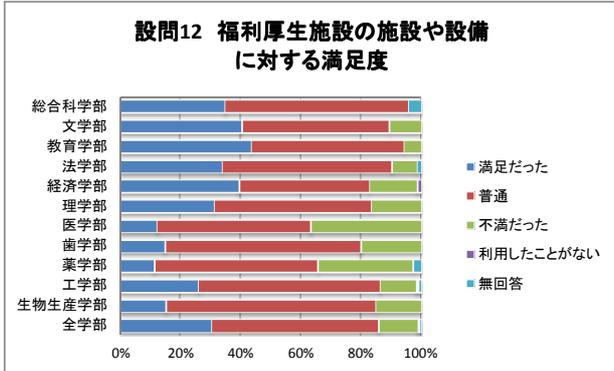
○図書館について
平成23年度



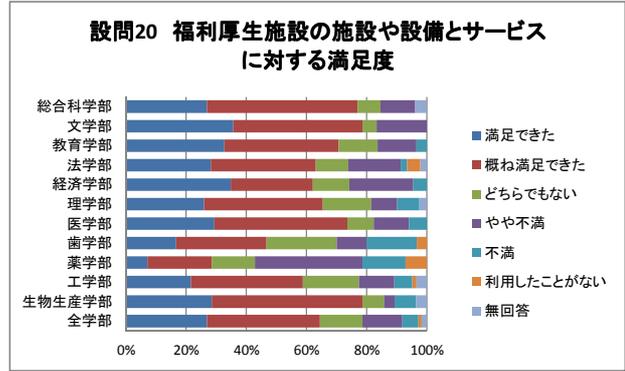
平成24年度



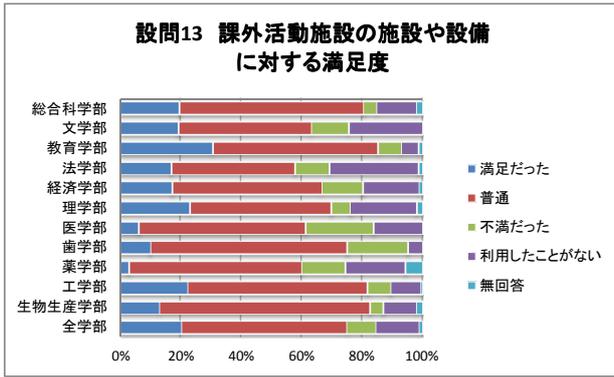
○福利厚生施設について
平成23年度



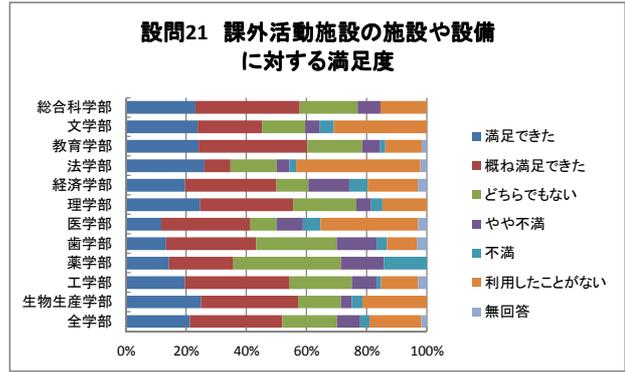
平成24年度



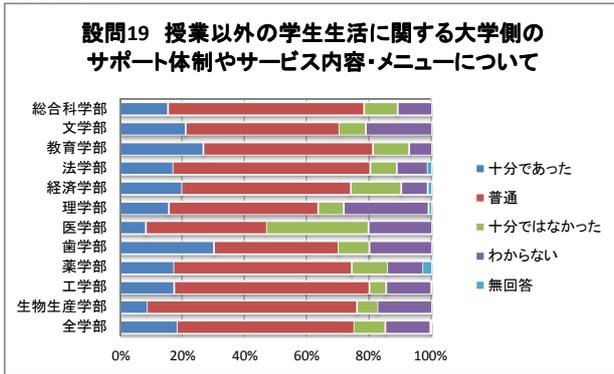
○課外活動施設について
平成23年度



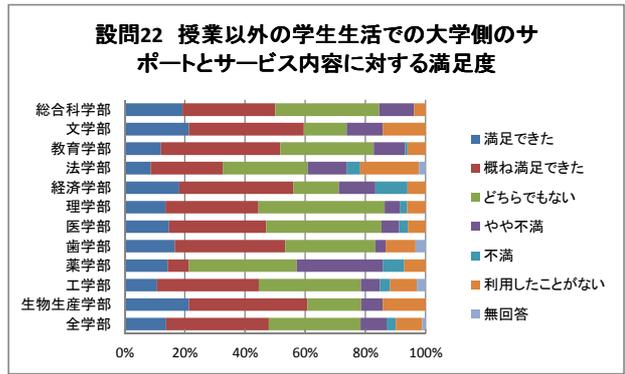
平成24年度



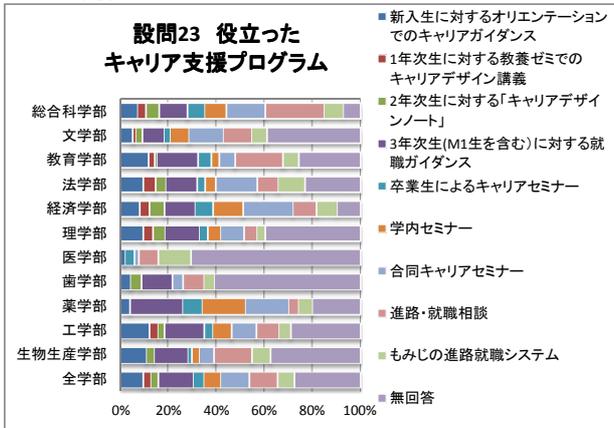
○授業以外の学生生活について
平成23年度



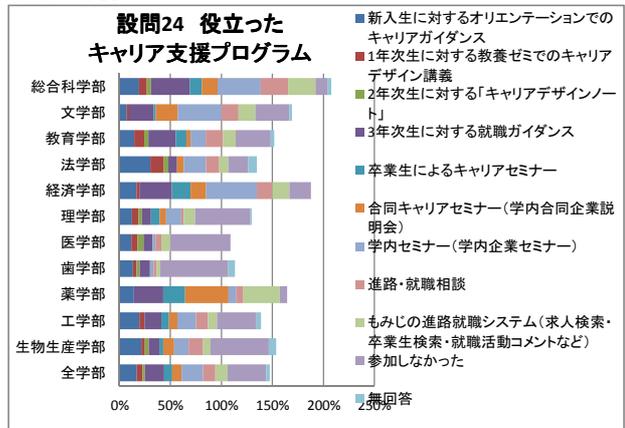
平成24年度



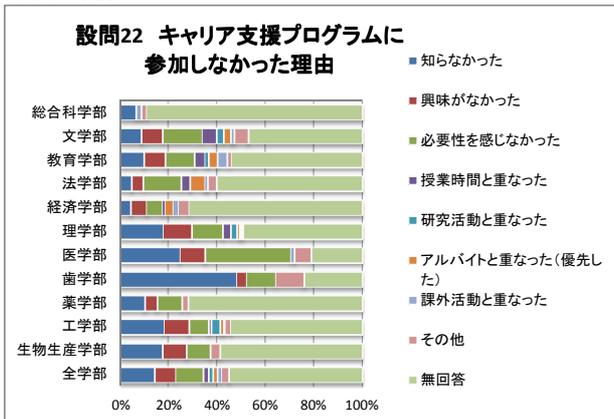
○キャリア支援プログラムについて
平成23年度



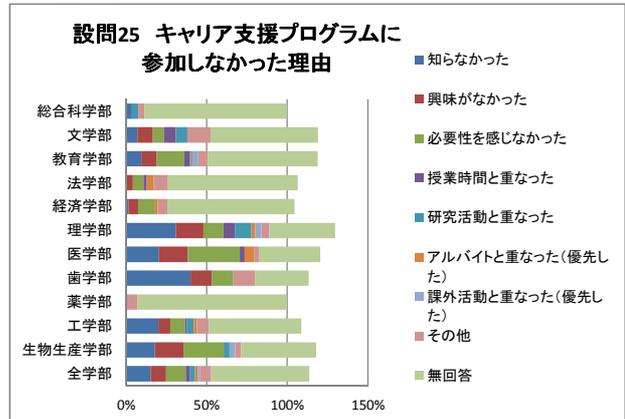
平成24年度



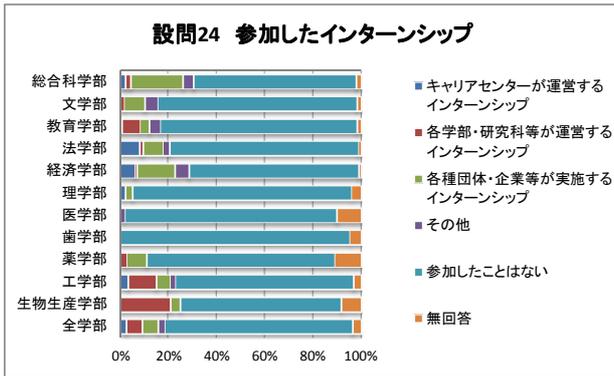
↓参加しなかった理由
平成23年度



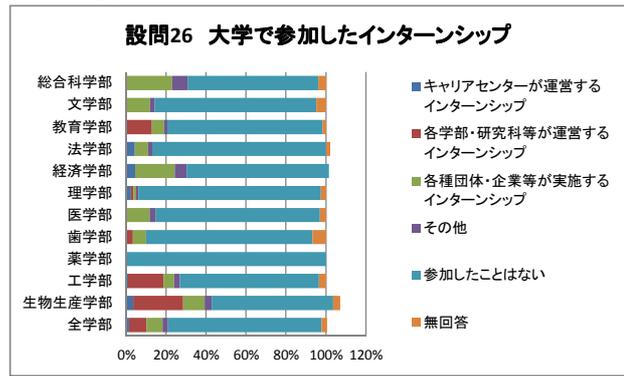
↓参加しなかった理由
平成24年度



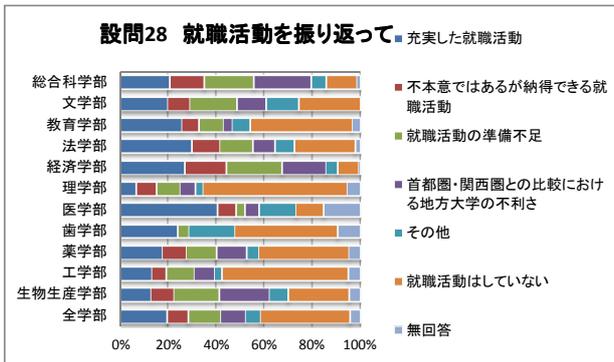
○インターンシップについて
平成23年度



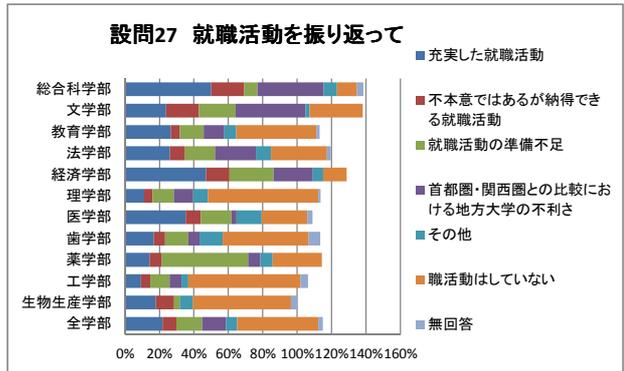
平成24年度



○就職活動について
平成23年度



平成24年度



平成 24 年度「卒業予定者によるフィードバック調査」実施要綱

1. 実施目的

本学は、平成 18 年度から学士課程教育に HiPROSPECTS®を導入しているが、昨年度の調査において「到達度評価を活用しなかった」と回答した学生が半数を超える結果となった。認知度の低さを改めて実感した今年度は、認知度を上げるための様々な取り組みを行ってきた。このように、本調査結果は大学の取り組みにおける成果などの把握・分析に役立っている。調査 3 年目となる今年度は、昨年度の調査結果との比較によりさらなる分析が期待でき、より多くの分野・部署における重要な基礎的資料となると考える。そのためには、少しでも多くの対象者の意見を集約することが重要となる。

この調査は、教育及び学生支援を実際に受けた学生からの意見を集約するために、卒業を間近に控える学生を対象として実施するものである。教育及び学生支援についての学生の意見を総合的に集約・分析することにより、各教育組織と各学生支援担当教職員の認識を高め、教育及び学生支援の充実・改善に資することを目的とするものである。

2. 調査の実施主体

教育・国際室教育支援グループが実施する。

3. 調査の実施方法

「学生情報の森 もみじ」のアンケート機能を使用して実施する。

4. 調査の実施対象

- (1) 学士課程教育
- (2) 学生生活
- (3) 就職活動

以上の 3 つの領域に関する総合的な内容とする。

5. 調査の実施時期

学生のアンケート回答期間は、平成 25 年 2 月 1 日（金）～平成 25 年 3 月 22 日（金）とする。

6. 調査項目

調査項目は、各所掌の部署（学生生活会議／学生生活支援グループ、キャリアセンター会議／キャリア支援グループ、教養教育会議／教養教育本部支援グループ、学士課程会議、大学院課程会議／教育推進グループ、入学センター会議／入試グループ）が提案し、教育支援グループが調整し、策定したものを基本とする。

7. 調査の対象学生

平成 24 年度卒業見込みの学生を対象とする。

8. 調査結果の集計・公表等

- (1) 集計結果は各所掌の部署へフィードバックし、今後の教育及び学生支援に向けた改善を促す。
- (2) 調査結果は、広島大学の HP において大学内外に向けて公表を行う。

9. その他

- (1) 調査は、「1. 実施目的」に記載した目的以外には利用しない。
- (2) 「学生情報の森 もみじ」から調査対象の学生に向けて、調査に回答するようアナウンスを行う。
- (3) この要綱に定めるもののほか、調査実施について必要な事項は、教育・国際室が別に定める。

平成 24 年度 卒業予定者によるフィードバック調査

設問数 28

① 履修した主専攻プログラム名を選択してください。
平成 17 年度以前の入学生は、学科名もしくはコース名を選択してください。
※回答選択肢は別紙を参照のこと

② 性別を選んでください。

1. 男性
2. 女性

③ あなたの母語（第 1 言語）を選んでください。

1. 日本語
2. 中国語
3. 韓国語
4. 英語
5. その他

④ あなたが入学した時の入試方法を選んでください。

1. 一般（前期日程）
2. 一般（後期日程）
3. AO
4. 推薦
5. その他

-----教育に関して-----

⑤ 教育プログラムの「到達度評価」をどのように活用しましたか。
(平成 17 年度以前の入学生は回答不要です。)(複数選択可)

1. プログラムの到達目標への指標として意識して授業を履修した
2. チューターや指導教員からの学習指導等を受ける際、自分の学習成果をふりかえる指標とした
3. 自身が身につけた力を他者に向かって具体的に説明する指標とした
4. 上記 1～3 以外の活用をした
5. 活用しなかった
6. 「到達度評価」の存在を知らなかった

⑥ チューターによる履修指導は適切に行われたと思いますか。

1. まったくそう思わない
2. そう思わない
3. そう思う
4. 強くそう思う

⑦ 研究室への配属は希望どおりでしたか。

1. あてはまらない（研究室への配属はない）
2. 希望どおりではなかった
3. 希望どおりだった

⑧ 卒業研究は、あなたにとって有意義であったと思いますか。

1. あてはまらない（卒業研究は実施していない）
2. まったくそう思わない
3. そう思わない

4. そう思う
5. 強くそう思う

⑨ 履修した教養教育の内容に満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた

⑩ ⑨で回答した理由について、具体的にお答えください。(自由記述)

⑪ 「教養教育でもっと学んで(身に付けて)おけば良かった」と思う知識や能力・技能があれば、具体的にお答えください。(自由記述)

⑫ 履修した専門教育の内容に満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた

⑬ ⑫で回答した理由について、具体的にお答えください。(自由記述)

⑭ 「専門教育でもっと学んで(身に付けて)おけば良かった」と思う知識や能力・技能があれば、具体的にお答えください。(自由記述)

-----学生生活に関して-----

⑮ 所属学部の学生支援室での学生への対応とサービスに満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

⑯ 学生プラザの学生支援部門での学生への対応とサービスに満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

⑰ 保健管理センターでの対応とケアに満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

⑱ 図書館での対応やサービスに満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

⑲ 教育情報システム（学生情報の森「もみじ」、WebCT等）の利便性に満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

⑳ 福利厚生施設（食堂や売店等）の施設や設備とサービスに満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

㉑ 課外活動施設（グラウンドや体育館、テニスコート等）の施設や設備に満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

㉒ 授業以外の学生生活での大学側のサポートとサービス内容に満足しましたか。

1. 不満
2. やや不満
3. どちらでもない
4. 概ね満足できた
5. 満足できた
6. 利用したことがない

㉓ 学生生活について、ご意見、ご要望等があれば自由に記述してください。

-----進路・職業選択及び就職活動に関して-----

㉔ 下記のキャリア支援プログラムで、キャリア形成や就職活動に役立ったものは何ですか。（複数選択可）

1. 新入生に対するオリエンテーションでのキャリアガイダンス
2. 1年次生に対する教養ゼミでのキャリアデザイン講義
3. 2年次生に対する「キャリアデザインノート」
4. 3年次生に対する就職ガイダンス
5. 卒業生によるキャリアセミナー
6. 合同キャリアセミナー（学内合同企業説明会）
7. 学内セミナー（学内企業セミナー）
8. 進路・就職相談

9. もみじの進路就職システム（求人検索・卒業生検索・就職活動コメントなど）
10. 参加しなかった

⑫ 設問 24 で「10.参加しなかった」を選択した方に聞きます。参加しなかった（できなかった）理由は何ですか。（複数選択可）

1. 知らなかった
2. 興味がなかった
3. 必要性を感じなかった
4. 授業時間と重なった
5. 研究活動と重なった
6. アルバイトと重なった（優先した）
7. 課外活動と重なった（優先した）
8. その他

⑬ あなたは大学入学後に次のインターンシップに参加したことがありますか。（複数選択可）

1. キャリアセンターが運営するインターンシップ
2. 各学部・研究科等が運営するインターンシップ
3. 各種団体・企業等が実施するインターンシップ
4. その他
5. 参加したことはない

⑭ 就職活動を振り返って、どのように感じましたか。（複数選択可）

1. 充実した就職活動
2. 不本意ではあるが納得できる就職活動
3. 就職活動の準備不足
4. 首都圏・関西圏との比較における地方大学の不利さ
5. その他
6. 就職活動はしていない

⑮ あなたの進路・就職選択及び就職活動を振り返って、キャリアセンターに対するご意見や必要だと思う支援プログラム等がありましたら、自由に記述してください。（自由記述）